



# 三内丸山通信

## 環状配石墓・大人の墓の立体表示完成

三内丸山遺跡は、縄文時代のムラのたたずまいを体感・体験できる場として、史跡整備を実施しています。

令和4年度は、発掘調査の成果をもとに、8基の環状配石墓、31基の大人の墓の立体表示を行いました。

環状配石墓は、遺体を納めた穴の上に土を盛り、直径約4mの環状に石を配置した墓です。本遺跡の

西側で24基が道路に沿って並んでつくられていたことがわかっていました。

大人の墓は、道路に沿って列状に並んでつくられており、遺跡東側では420m以上にわたって続くことが確認されています。

今回の整備で、当時の景観をより体感できるようになりました。

また、大人の墓の露出展示の覆屋は、内部に発



【環状配石墓の立体表示】

生する結露の軽減、遺構の維持管理作業性の向上を目的とし、改修を行いました。



令和5年度(2023年度)の調査地点

【令和5年度発掘調査地点】

この付近では、三内丸山遺跡の集落が最も大きくなった縄文時代中期中葉(今から約5,000〜4,800年前)を中心とする竪穴建物跡や貯蔵施設と考えられる土坑(どこう)が多数見つかっています。東側には墓と考えられる土坑が見つかっていることから、今年度の調査では集落の東側の広がりを確認します。

発掘調査現場は、7月3日(月)から公開しており、9月15日(金)までの平日には自由に見学することができません。(雨天時等の調査中止日を除く。)また、現場公開日の午前11時からは、発掘調査担当者による15分程度の「現場ガイド」を行っています。現場ガイドの際にはもちろん、公開時には発掘調査に対する素朴な疑問や質問等に発掘調査担当の職員がご答えいたします。ぜひ発掘調査現場をご覧ください。

また、ホームページでは、「発掘最前線」のコーナーで、調査の様子を毎週更新しています。こちらもぜひチェックしてみてください。

## 発掘調査開始!

三内丸山遺跡では、ムラの移り変わりや人々の生活について解き明か

すため、毎年度発掘調査を行っています。

## 特別展

## 「三内丸山と漆ーくらしを彩る技ー」開催

「漆」といえば何が思い浮かぶでしょうか。お椀や箸などの食器、さらには仏壇など、意外と身近なところで漆は使われています。

漆(ウルシの樹液)を利用する技術は縄文時代からみられ、三内丸山遺跡でも漆塗りの土器や櫛のほか、ウルシの木や種子なども出土しています。

この特別展では、三内丸山遺跡の漆利用について紹介するとともに、青森県の縄文遺跡から出土した漆製品や製作に関する道具など約200点を展示し、その特徴や、漆利用の技術に迫ります。

また、特別展の内容について理解を深めていただけるよう、3回の講座を開催します。特別展の観覧とあわせてご参加いただければ幸いです。各イベントの詳細は、三内丸山遺跡公式ホームページや三内丸山遺跡センター公式SNSをご覧ください。

皆さまのお越しをお待ちしております。

### 令和5年度特別展「三内丸山と漆ーくらしを彩る技ー」

会場：三内丸山遺跡センター企画展示室  
会期：令和5年7月21日(金)～9月18日(月・祝)  
観覧時間：午前9時～午後6時 ※入場は閉館の30分前まで  
休館日：8月28日(月)  
観覧料：一般900円(720円)、高校・大学生450円(360円)  
( )内は20名以上の団体、中学生以下無料  
※特別展観覧料で遺跡を含む常設展も観覧可能です。



【赤色の顔料と漆を入れた容器(三内丸山遺跡)】

